



渡邊 洋一さん
Watanabe Youichi

〔上早川三区〕

わたなべ よういち / 地域づくりボランティア。龍野小に近い竜野ふれあい広場の桜ライトアップに取り組む。甲佐ライオンズクラブ会長を昨年6月まで務めるなど社会貢献活動にも尽力。

あの日々の記憶と想いを 未来につなぐ竜野の夜桜

「地域みんなで育てた桜が夕闇に輝く姿を見て、コロナ禍で窮屈な日々を過ごす皆さんの心が一時でも軽くなってくれたら嬉しいですね」と話すのは竜野ふれあい広場の桜並木のライトアップに取り組む

んでいる渡邊洋一さん（上早川三区）。

渡邊さんがこの活動を始めたのは、熊本地震やその後の豪雨災害で傷ついた地域の皆さんに少しでも明るい話題を届けたいという想いから。

「震災から1年が過ぎようとしていた春、被災家屋のれきなどを受け入れていたこの広場の桜に目が留まったのがきっかけです。地震や豪雨の被害を耐え抜き、たくましく花を咲かせた桜を見て、何だか励まされているような気がしました」

建設機材のレンタル業を手掛ける渡邊さんが自社の照明機器を活用してライトアップ

を始めたのは震災から3度目の春。山積みの震災ごみが撤去され、想いの広場が以前の姿に戻って以来、地域の理解を得ながら活動を続けている。「この地であの日々を共に

乗り越えた桜だからこそ、地域の皆さんの心に届くものがあるんだと思います。災害から立ち上がった皆さんには、桜と自身を重ねてほしいです。あの日起こったこととその後

の苦難を乗り越えたことを思い出して、長引くコロナ禍でも前を向いてもらえたら」

震災から6度目の春も満開の花を咲かせた広場の桜たちは、あの日、新1年生だった龍野小児童の卒業も見届けた広場の桜のライトアップは4度目となり、地域の皆さんから感謝されることも増えたという。新たな春の風物詩を支える渡邊さんは「桜の季節、この地から羽ばたく若者たちを見送るために。そして、この地に戻ってくる彼らを迎えるために。竜野の春を彩るライトアップが続けていけたらいいですね」と輝く夜桜を優しく見上げる。

広報 こうさ

2022年（令和4年）5月号
通巻634号